



宮古市で行われているカキ殻処理（破碎）



黒沢一成議員

漁業振興

カキ残さいの解決策は

現状苦慮し検討中

質問 カキなどの残さいの処理が問題となっているが、他の産地の処理方法はどうか、解決策はないのか。
沼崎町長 カキ養殖は全国的に行われているが、養殖年数が二年以内と短い所がほとんどで、当町ほど問題となっていない。宮古湾や広田湾では、カキを湯に漬けて付着物を駆除するた

め付着物はわずかとする。ホタテガイ養殖では大量の付着物が発生するが、北海道では堆肥処理、青森県平内町では焼却処理が行われている。
産業振興課長 山田の養殖方式では温湯処理は難しい。また出荷までに三年から五年かかるため付着物が多くなる。

町の考えを聞く

質問 施政方針に関して「地域づくり活動等総合支援事業」の創設と導入・活用とはどのような内容か。
沼崎町長 これからの町づくりには今まで以上に住民の協力と積極的な参画が必要である。このため四月から総務課に「住民協働推進室」を新設し、地域住民との協働によるまちづくりを推進していく。
 当面は地域によって異なる組織や活動内容の現状と課題、また他市町村の活動

事例の把握に努める。そして、(仮称)「地域づくり活動等総合支援事業」の補助要項などその内容については、自治会やコミュニティの人々の意見や提案を受けながら検討する。
 地域に貢献できる活動、地域が元気になる活動、地域の潜在的な力を発揮できる活動、地域やグループが主体的に取り組める事業を支援していきたい。平成十九年度からの事業実施を予定している。

住民協働

地域づくり支援事業 意見・提案を受け検討

残さいは事業系の一般廃棄物であり排出者の責任である。その処理について世間の目が厳しくなり法律の

取り締まりが出てきた。試験的に内陸部の施設へ六〇〇キほど運んで処理したが費用がトン当たり一万六千円かかる。沿岸部には処理施設がなく現状苦慮している。決して手をこまねている訳ではない。漁協、県の担当課を交えて検討中である。